7. 代表あいさつ

代表あいさつ

～「石巻災害復興支援協議会」から「みらいサポート石巻」へ～

私たちは、東日本大震災の支援に集まったＮＰＯ・ＮＧＯの支援受入れ窓口として、「石巻災害復興支援協議会（ＩＤＲＡＣ）」を組織し、発災直後より、日本国内はもとより世界中の方々からの温かく心強い支援をいただきながら、まずは復旧活動に全力で取り組みました。

被災された方々への物資提供はもちろん、ボランティアのテントサイトへの給水車や水タンクの供与、ＮＰＯが使用する食材や備品の提供等、支援者へ向けても多くのご支援を頂きました。

また、事務局へも企業や団体、個人の皆さまからご寄付や助成、備品の提供、あるいは人員派遣による多大な支援を頂きました。皆様のご理解とご支援がなければ、私たちの活動は成り立たず、石巻におけるＮＰＯの活動成果をこのような形にまとめることも出来ませんでした。特に寄付金については厳正に管理し、行政から委託契約経費の後払いを受けるまでの貴重な運営資金となった他、登録団体への貸し出しを含む共有車両の維持管理費や金華山支援等における合同チーム・連携による事業経費として、また、私たちの活動を支える資金として、有効に使用させていただきました。

本来個別に感謝の言葉を述べさせていただくべき皆さまに対し、十分に御礼申し上げることが出来ず心苦しく感じておりますが、東日本大震災から現在まで、惜しみない支援をしてくださった皆様お一人おひとりに、改めて心より感謝申し上げます。

この２年間、私たちは数えきれないほどの支援と共に、多くの出会いと学びの機会をいただきました。私たちが暮らす日本という国は、残念ながら災害大国であるということを自覚しなければなりません。人の力で災害そのものを無くすことはできませんが、災害に対して備えること、そして発災後に被害を最小限に留めるために出来ることはたくさんあります。私たちは災害を経験し、復旧活動に携わった組織として、これからも復興に向けた取り組みや被災された方々の心を支える活動を続けるとともに、今後の災害に備え、少しでも多くの命を守るための活動も視野に入れる必要があると感じています。

復旧期から復興期にフェーズが移り変わっていく中で、石巻災害復興支援協議会（ＩＤＲＡＣ）の役割も、ＮＰＯの連携調整から地元の方々自らが復興に向けて取り組む活動のサポートに変化してきました。2012 年 11 月、名称を「みらいサポート石巻」に改め、石巻の未来を創り上げていく人々と共に歩んでいます。

震災から２年目を迎える現在も、依然として多くの課題を抱えている状況にありますが、この石巻市には、地元の復興のために現状の打開に向けて様々な団体や人々が活動を続けています。これからのみらいサポート石巻は、これまでの活動で培った経験とノウハウ、関係者とのネットワークを基に活かし、この地域で自ら立ち上がり、行動する地元の方々による活動を前に進めるためのサポートを継続的に実施していきます。

私たちみらいサポート石巻は、石巻市民と、石巻の復興のためにここに留まり活動を継続することを決断してくれたスタッフで構成されています。石巻の地域に密着した視点と外からの新鮮な視点の両方を持って石巻市の未来を見据え、復興の過程で地域が抱える課題も解決してゆけるように、今その時々で必要なことを考え実行できる組織を目指して今後も活動を継続して行きます。

ご寄付のお願い

一般社団法人みらいサポート石巻は、震災後に生まれた地元の団体として、被災地石巻が将来あるべき姿を見据え、息の長い地域づくりに真摯に取り組んでまいります。

いただいたご寄付は、復興支援活動を実施するため、責任を持って大切に活用させていただきます。皆さまからのお力添えをお待ちしております。（※領収書が必要な方は、お手数ですが info@ishinomaki-support.com へメールにてご連絡ください。）

①銀行お振込みによるご寄付

銀 行 名	七十七銀行
支 店 名	石巻支店
口座番号	普通　9244883
名 義 人	社）みらいサポート石巻 シャ）ミライサポートイシノマキ

②クレジットカード決済によるご寄付（2013 年 3 月上旬より受付開始）

みらいサポート石巻ホームページからご寄付下さい。

みらいサポート石巻　検索

編集後記

～共につくろう　輝く未来～

震災直後の「全体会」・・・そこには「何とかしたい」という熱意が溢れていました。

毎晩、石巻専修大学に集まっては翌朝にまた現場に出ていく人達を目の前にし、現場に出ずに記録を取っていた事務局としては、その熱意が引き起こした数々の「奇跡」を伝える責務があると感じずにはいられませんでした。

東日本大震災の被災規模は余りに甚大で、その復旧・復興のため力の限り尽くしておられる方々は私たちが知る範囲外にも沢山いらっしゃいましたが、ここに石巻におけるＮＰＯの活動規模や成果をまとめることが出来たのは、ひとえにＮＰＯの方々からの善意による継続的な情報共有のおかげです。改めて、心より感謝申し上げます。

石巻では1日に最大3,000人が活動可能な「つながり」が仕組みとして機能しました。たくさんの関係者が一つの目的に向かって大規模な連携活動を行う様子から、日本人の底力や将来に向けた可能性を感じたのは私だけではなかったと思います。

将来起こりうる大規模災害においても出来るだけ多くの方々の善意や熱意を活かせるように、東日本大震災の支援において行動力と柔軟さを併せ持って活躍したＮＰＯの存在が、今後の防災対策に組み入れられれば望外の幸いです。

ＮＰＯやボランティアの熱意を受けとめた石巻市には、災害協定の準備に代表される「備え」がありました。

その石巻市には「まもりたいものがある」の力強い書き出しで始まる市民憲章があり、大震災後を予見したかのようなその一語一語には、熱意を持って石巻に集った人達と相通じる、覚悟と決意が息づいています。

震災から２年が過ぎようとする今も「感謝のこころ」を胸に、市外から来た支援者を、自分たちと共に地域を担ってゆく仲間として受け入れてくれる温かい人達。このような方々の支えがなければ、私たちの団体は存在しませんでした。

大きな災害に直面しながらも「感謝」を失わない石巻と、
大震災をきっかけに「熱意」を胸に外から来た人たちが、
“支援する側・される側”の関係から一歩踏み出し、
共に未来をつくっていく。

石巻市民憲章

（平成20年4月1日制定）

まもりたいものがある
　それは　生命(いのち)のいとなみ
　　豊かな自然

つたえたいものがある
　それは　先人の知恵
　　郷土の誇り

たいせつにしたいものがある
　それは　人の絆(きずな)
　　感謝のこころ

わたしたちは　石巻で生きてゆく
　共につくろう　輝く未来

石巻が今後つくってゆく「輝く未来」。
それは、「被災地の復興」を超えた、日本全体の未来に向けた普遍的な価値があるのではないでしょうか。

石巻で活動した28万人を超える皆さん、それを受け入れた石巻の皆さん、
現地での活動を様々な形で支えて下さった皆さん、
東日本大震災で失われたものに対して思いを寄せて下さった皆さん。

全ての方々を紹介することはできませんが、スタッフを初め、皆さんのおかげでこの小冊子が形作られました。
石巻で活動して下さった28万人、その活動を支えて下さった数え切れない人たちの思いに対して…
改めて、ありがとうございました！

みらいサポート石巻　中川　政治

3.11 東日本大震災から２年　石巻災害復興支援協議会 活動報告書

発　行　日	2013年3月7日
発　　行	一般社団法人みらいサポート石巻
編集・制作	一般社団法人みらいサポート石巻　報告書作成チーム
協　　力	登録団体および協働団体の皆様
印　　刷	株式会社鈴木印刷所